

Mémoire 2025

第171回 天皇賞(春) (GI)



直線の一騎打ちを制し、長距離界の新星へ

息詰まる競り合いを制し、長距離界の新星が初タイトルを獲得した。

ダイヤモンドSを4馬身差で圧勝して重賞初制覇を飾ったヘデントール。日経賞で大混戦のゴール前を制し、やはり重賞初制覇のマイネルエンペラー。格上挑戦の阪神大賞典を6馬身突き放して勝利したサンライズアース。サウジアラビアで芝3,000^米のG2レッドシーターフHを制してきたビザンチンドリーム。春の長距離王者決定戦は、ジャスティンパレスとブローザホーンのG1馬2頭に、各前哨戦から集結したこれらの新星候補を加えた計15頭で争われた。

レースは出入りの激しい展開となった。緩みのないペースで逃げるジャンカズマを、2周目の向正面で早くもマイネルエンペラーが捉えて先頭を奪う。激しく手綱を動かしてこれを追うサンライズアース。息つく間もなく、3コーナーからはジャスティンパレスやショウナンラプンタが外を上昇し、先行勢に並びかけていく。横に広がっての大混戦となった直線、さらに外から力強く伸びたのは、1番人気に推されたヘデントールだった。

先頭に立とうとするショウナンラプンタを一気に交わして突き放す

と、あとは外から追い込んできたビザンチンドリームとの一騎打ち。最後まで抜かせることなく、アタマ差振り切った勝負根性に、この週から短期免許で騎乗しているダミアン・レーン騎手も「いいファイトを見させてくれました」とパートナーを称えた。

前年はGI初挑戦となった菊花賞で悔しい2着。そこから間隔を空け、4歳を迎えたこの春、ダイヤモンドSでの重賞初制覇からGI初制覇と一気に階段を駆け上がった。木村哲也調教師が「ホッとしています。トップオブトップのGIで責任の大きさを噛み締めていました」と安堵の表情を見せたように、まさに満を持してのタイトル奪取と呼べる勝利となった。

第171回天皇賞(春) (GI)

5/4 京都競馬場 3,200^米(芝・右・外) 晴・良 15頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ヘデントール	牡	4	58	D.レーン	木村 哲也	3:14.0	①	⑥⑦⑥⑤
2	ビザンチンドリーム	牡	4	58	A.シュタルケ	坂口 智康	アタマ	⑥	⑭⑭⑫⑧
3	ショウナンラプンタ	牡	4	58	武 豊	高野 友和	3	④	⑧⑧⑥③
4	サンライズアース	牡	4	58	池添 謙一	石坂 公一	2	②	④③②②
5	マイネルエンペラー	牡	5	58	丹内 祐次	清水 久詞	1 1/4	⑧	②②①①

ヘデントール
栄光の蹄跡

6

ルーラーシップ 115 E
ヘデントール
コロコバード(ステイゴールド)
2021.4.6 生 安平・ノーザンファーム



牡4
黒鹿
58
D.レーン
1994.2.6 生
南キャロットファーム
木村 哲也(美浦)

2025.2.22 東京
ダイヤモンドSGⅢ
16ト1人 1(115)
57^米。 戸崎 圭太
芝3400良 3:32.2

2024.10.20 京都
菊花賞 G I
18ト4人 2(114)
57^米。 戸崎 圭太
芝3000良 3:04.5

2024.8.17 新潟
日本海S 3勝クラス
9ト1人 1(—)
55^米。 C.ルメール
芝2200良 2:12.4

※昨年のカラー版出馬表より抜粋